

萩の郷

No.123

2026.2.15発行

発行者：下市田区
発行責任者：光沢金良
印刷：龍共印刷株式会社



思い思いにゲームや正月の遊び

新春お楽しみ会 萩山神社獅子舞の実演も

下市田区と下市田支館主催の新春お楽しみ会が1月25日、区民会館で開かれました。区民とスタッフなど約170人が参加し、Eスポーツ、正月の遊び、オセロや将棋など好きなコーナーに足を運んで思い思いに楽しみました。また地域づくり委員会が市田柿を使った新しいイベントを企画運営しました。

コロナ禍を経て新たなコミュニティ事業として実施するようになって4年目。区の地域づくり委員会の議論も踏まえ、参加者の幅がより広がるように、前回からEスポーツを導入するなど大幅に内容を拡充しています。今回は計画段階で中学生の意見を聞き、さらに内容の改善を図りました。

前回から参加者に地域のことを知ってもらう機会としても活用しており、今回は萩山神社獅子舞の解説と実演を行いました。獅子舞と獅子曳きの説明に続き、萩山郷土芸能保存会Eスポーツでは「太鼓の達人」に加え人気の「マリオカート」と「スマッシュブラザーズ」のブースを設け、賞品も

あつて多くの子どもたちが楽しみました。オセロや将棋、立体四目並べ、バランスゲームなど多彩なテーブルゲームや、こま回し、羽根つき、けん玉、だるま落としなど昔ながらの日本の遊びも人気でした。たこ揚げは積雪のため中止でした。

市田柿イベントでは、前回も子どもたちに喜ばれたチョコ市田柿づくりに加え、新企画の積み上げゲーム「高っかもり大会」と計量ゲームを実施しました。(3ページに詳細記事)

おやつコーナーではおもしろい、豚汁のサービスがあり、どちらもおいしいと大好評でした。



区民の皆様には、新しい年を迎え益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。日ごろ区の運営に頂きますご支援に厚く感謝を申し上げます。

区長 光沢金良

区民の皆様には、新しい年を迎え益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。日ごろ区の運営に頂きますご支援に厚く感謝を申し上げます。

世の中が不安定になり、何が起きてもおかしくないような中で、地域づくり委員会のご意見をいただきながら、代議員会の審議を経て進めさせて頂いております。その中では、自治会未加入の増加と負担の公平性の問題について、将来の対応を、町の担当者を含めながら検討してきました。今後は区長会を通して町と関係者でも検討がされていく予定です。

区のコミュニティ活動についても多くの皆様に参加いただけるように内容を検討し、近くは萩の郷ふれあい広場や新春お楽しみ会なども企画してきました。

さらに「区のインフラ環境・安心安全の未来へ」を

焼しました。近くで木を燃やしていた火が燃え移ったとのことで、風はそれほど強くなかったものの空気が乾燥しており、激しい燃え方で、隣家への類焼を防ぐのがやっとでした。高齢者の状況判断、消火栓の配置が課題と感じました。空気の乾燥が続く春先にかけて、火の取り扱いにはくれぐれもご注意ください。

それでは、今年も引き続き皆様の御支援ご協力をお願い申し上げます。

波打つ姿に絶句しました。残念ながらちようど雨が強く、傘を差しての見学で少々残念でした。

昼食はこの東尋坊で海鮮料理を満喫し、その後金沢21世紀美術館と金沢武家屋敷の散策です。現代美術館はとても規模も大きく、武家屋敷跡の伝統的な落ちついた景観を散策しました。

金沢市内のビジネスホテルに到着し、皆さんゆったりとくつろぎ開始です。ホテル近くの片町居酒屋で17名全員で、楽しく語り合いました。

簡易テントの組み立て体験

防災研修会

下市田区は2月7日、区民会館で令和7年度第2回防災研修会を開き、自治会役員、常会長など約50人が参加して簡易テント・ベットの設営を体験しました。照明を消して会場を暗くし、非常用ライトの明かりで作業してみました。

このほか光沢区長が改めて三六災害の被害状況を説



より実践的な内容に

明し、自治会ごとに身近な危険箇所について話し合いました。

合掌の里に到着。小さな集落ですが、13棟の合掌造りのいにしへの光景が目前に開けます。

古川祭り会館を見学し、「古川祭り」の実写動画を見ました。祭りの雄大さが目に焼き付きます。

昼食は飛騨古川地域の食文化を食し、瀬戸川と白壁土蔵街を散策。瀬戸川の錦鯉とふれあい、帰路につきました。

最後の車中では会話も弾み、区民会館到着です。全員親睦も深まり笑顔で帰宅して行きました。

代議員研修旅行 北陸、飛騨路へ

旅行幹事 林 等(1区)

代議員会の研修旅行が昨年10月5、6日に実施されました。総勢17名で区民会館を朝7時出発です。28人乗りサロンバスで、まずは宴会の始まりです。差し入れを大勢の方が持ち込んでくれました。最初の見学場所の東尋坊までの車中ではスクラッチゲームで大賑わいでした。

東尋坊には午前11時半頃到着。雄大な岩礁を前に、



五箇山の合掌造りの里で

30年目を迎えた名物

ふるさと祭り 下市田おしるこサービス

昨年10月25日の高森ふるさと祭り、下市田区は恒例のおしるこ無料サービスを実施しました。昔ながらのおしるこの味と直火で焼いた餅がマッチして、今回も大好評でした。

このおしるこサービスは平成8年に萩山郷土芸能保存会が行ったのが始まり。獅子舞200年大祭で盛り

上がった年です。翌年はコミュニティ活動推進委員、婦人ふるさとづくり連絡員の協力で、下市田に6分館ができた平成10年から

分館長・分館主事が加わりました。のちコミュニティ推進委員や女性ふるさとが外れ、かわって支館部員が手伝うように。すっかりふるさと祭り名物として定着し、今回で「創業30年目」となりました。スタッフの赤いエプロンとバンダナもおなじみです。

今回は2000食の提供を計画し、大鍋8杯の調理を行いました。20ℓの大鍋で粒あんを溶くのは力仕事で、分館長・分館主事のみなさんが活躍します。



テント前に長い行列



今年も「おいしい」と好評

少し肌寒い天候だったのと、新たに作った宣伝用プラカードも効果があったのか、ほとんど行列が途切れ



区三役、支館長などの仮装チーム

ずスタッフが休む暇もない大盛況。イベント終了の午後4時まで行う予定でしたが、午後2時過ぎには品切れに。提供した数は2200食を超え、2100個用意していた容器が足りなくなり、終わりの方は紙コップで出しました。宣伝用にティラノサウルスの着ぐるみを使ったほか、今回も区三役などの仮装チームが登場し「鬼滅の刃」のコスプレをして会場を一回りしました。

市田柿のイベントを作ろう

地域づくり委員会 新春お楽しみ会で試行

1月25日の新春お楽しみ会で、地域づくり委員会は市田柿を使ったイベントを運営しました。昨年に続きチョコ市田柿作りを行ったほか、新たに積み上げゲーム「高っかもり大会」と計量ゲームを行いました。

積み上げゲームは27人が挑戦。子どもより大人がはまっていました。計量ゲームは480〜500gで合格とし、40人が挑戦して6人がクリアしました。積み上げゲームの記録上位は次のみなさん。

「市田柿発祥の里」として全国に発信できるイベント作りを構想するなか、ギネス世界記録登録を目指すことも考えています。

- ① 吉田正治 14・3 cm (9個)
- ② 串原治延 13・7 cm (8個)
- ③ 福島文雄 12・4 cm (8個)
- ④ 吉見あまね 12・2 cm (7個)



大人がはまった積み上げゲーム



子どもに人気のチョコ市田柿

- ⑤ 遠山 愛 11・8 cm (7個)
 - ⑥ 中山翔大 11・2 cm (7個)
 - ⑦ 堤本巴絵 11・0 cm (6個)
 - ⑧ 清水由美子 10・6 cm (6個)
- なおゲームに使った市田柿はスタッフが喜んで分けて持ち帰りました。

1区 文化交流会 多彩なステージ、空手演武

分館長 船田 智

1区分館では昨年10月19日、積善会館において文化交流会を実施しました。区民の皆さん約80人が集い、多彩なステージ発表を楽しみながら祝宴で大いに盛り上がりました。

来賓の下市田区長等による鏡割りで幕を開け、最初の演目の紅華太鼓で会場は一気に華やいだ空気に。その後、御柱木遣り喇叭保存会の木遣りの披露、ナーブ・アオ・ハワイのメン



多彩なステージと祝宴で盛り上がる

5区自治会と分館は2月8日、下5会館で「お〜いお茶だに」を開きました。子どもからお年寄りまで約70人が参加し、飲んだり食べたりしながらステージ発表を見て、楽しいひと時を過ごしました。
ステージでは小学生が歌やダンスを披露。劇団あ・



迫力ある空手演武

バーによる優美なフラダンスや麦の会の皆さんによる日本民謡の演奏で参加者と一緒に歌を口ずさむ場面もありました。また今回は、

多世代が楽しいひと時

5区 お〜い、お茶だに

じゃ・ばあの人形劇、井出十夢さん(豊丘村)の猿回しと続き、小さな子どもから大人まで楽しめる内容でした。最後はビンゴゲームで盛り上がりました。
開催時期を6月から2月に変更し、朝は今季最高の積雪に見舞われましたが、参加者が集まる昼前には晴



れ間が出て雪も消え始め、無事に開催できました。

地区内の幼児から80代の方達まで60名を超える方がお越しください、盛り上がりしました。年々下2地区以外からの参加者も増え、今年は県外からの参加者も見られました。
世の中物価高など暮らしにくいですが、少しでもみんなと一緒に楽しめる企画を継続していけたらと考えています。

空手の全国大会に出場経験のある地元の中学生下澤弥月さんに演武を披露いただきましたが、生で見る迫力に会場の皆さんも固唾を飲んで見入っていました。

今後とも区民の交流の場として、楽しめる企画を模索し継続していきたいと思えます。

2区 笑顔をつくろうプロジェクト 心温まる心詩コンサート

自治会長 松島健治

世の中の常識がコロナ禍で否定された頃、「地域の中で何かみんなで楽しめることをやろう」と始めたのが、このプロジェクトでした。当初は分館の事業とし

て立ち上げましたが、昨年からの町の「町民主体のまちづくり活動支援事業」の補助金をいただきながら、自治会から離れ有志の実行委員体制で企画運営を行って



あたたかいギターと歌声が会場を包む

おります。
本年は昨年と同様に地元を中心に活動中のボーカルとアコースティックギターとユニット「心詩」の心温まるコンサートを行いました。奈菜さん、華歩さん、桑原利彦さんの3人のユニットです。

下市田史談会の研修旅行 御嶽山信仰の木曾谷へ

会員 小林和子

冬の訪れを感じる令和7年10月21日に、下市田史談会研修旅行「霊峰『御嶽山』信仰の地である木曾谷への旅」が行われ、22名が参加しました。

日本有数の長さを持つとしても美しいものです。橋の中ほどから階段で中州に下りたり、皆、張り切って動き回りました。

続いて御嶽神社黒沢口里宮と御嶽山霊神碑群を訪れ、車道脇に林立する霊神碑の密度にしばし圧倒されました。霊神碑を含めて御嶽山一帯には2万基を越える石碑があるそうです。



桃介橋から中州に下りて

午前8時に下市田区民会館を出発し、中央道の神坂スマートICで一般道に降りて、あつという間に木曾谷に。最初の見学場所の桃介橋は電力王と呼ばれた福沢桃介が木曾川に架橋したもので、木製のトラス構造の吊り橋で全長274m、



御嶽山を一望するビューポイントで

参加者の中に若い頃、御嶽講の一員として里宮から剣ヶ峰まで登った方がいらして、その方のお話から、伊那谷からの参詣の様子もうかがい知ることができました。

昼食は開田高原で温かいお蕎麦とソースカツ丼の定食をいただきました。熱燗でほっとされた方々もいらしたようです。昼食後に立ち寄った柳又ビューポイントからは独立峰御嶽山東面と山麓の開田高原が目の前に広がり、歓声があがりました。

次の見学地の福島関所資



福島関所でガイドの説明を聴く

料館では、木曾代官を務めた山村氏による「入鉄砲に出女」取り締まりの様子を案内の方の熱のこもる説明でうかがいました。展示されている古文書に見入る姿

も史談会研修旅行ならではのです。

隣接する高瀬家資料館は館内をストープで暖めてくださっていて、ゆっくりと見学できました。姉の嫁ぎ先であった高瀬家を十数回訪れた島崎藤村は、同家をモデルに小説「一家」を執筆しています。

帰路は権兵衛トンネル経由で伊那谷に向かいました。小黒川スマートICで中央道に乗り、お腹も心も満たされて、しばしうつらうつら。下市田区民会館に到着し、笑顔での散会となりました。

戦争の体験を後世に

新春放談会で思いを語り合おう

下市田史談会は1月12日、区民会館で恒例の新春放談会を開催しました。約20人が参加し、「戦後80年、戦争の記憶を語り継ぐ」をテーマに、体験や思いを語り合いました。

「勝利、勝利のラジオ放送をスポーツを楽しむよう

に聞いていた」、「伯父は戦争で亡くなり、弟直して私が生まれた。父は輸送船が撃沈され海に投げ出されて助けられた。よくうなされていた」などの体験が語られ、従兄弟が特攻で戦死した参加者は「戦争は有能な人材をたくさん亡くした。



戦争中の記憶と平和への思いを語る

ばかりだし、それが一番悔しい」と話しました。

県縦断駅伝に初出場

トップ守り役割果たす 4区の鳥海宏陽くん

下市田4区の鳥海宏陽くん(高森中2年)は昨年11月16日に行われた第74回長野県縦断駅伝競走大会(松本市)飯田市、14区間98・72

km)に飯田下伊那代表として初出場を果たし、中学男子の第5区3・04kmを走りました。飯田下伊那チームは序盤

でリードする作戦通り3区でトップに立ち、4区は区間賞の走りで2位との差をさらに広げて5区の鳥海くん。鳥海くんは見事トップを守り切って6区にタスキをつなぎました。飯田下伊那は後半、長野市と激しく3位を争う展開に。最後は14秒差で4位に

終わり、惜しくも2年連続のメダルは逃しましたが、十分に優勝を争う力があることを示し、次回以降に期待がふくらんでいます。鳥海くんは日々トレーニングを重ねながら積極的に県内外のレースに出場。昨年9月の県中学校新人大会(中南信)男子3000mで9分26秒22の自己ベストを出して4位に入り、飯田下伊那代表の座をつかみました。

今年もよろしくお願ひ申し上げます。

自分を信じ楽しむ

中2 鳥海宏陽(ひろはる) 4区

僕は今年初めて県縦断駅伝の選手になりました。不安より楽しみたい気持ちの方が強かったです。

前日「トップでタスキを渡してあげるからな!」と言われ、本当にトップで来たことに嬉しく思いました。僕はこのタスキを絶対にトップで渡すことだけを考えて走りました。ラスト1キロ自分の思うような走りが出て来ませんでした。自分の力をすべて出し切るこ

とが出来ました。飯田下伊那チームは総合4位でしたが、来年こそは今回よりも強い走りをして



初出場の県縦断駅伝でトップ守り力走

チームに貢献したいです。今年の大会で印象に残ったことは、新人戦です。前回のレースまで、なかなか自分の思うようなレースが出来ず、だいぶ落ち込んでいました。でも、新人戦の前日「自分の力を信じて、楽しんで走ればいい」とお父さんに言われ、楽しむこ

とを考えて走りました。その結果、4位で大幅な自己ベストを出すことが出来たことが、大きな自信になりました。今後の目標としては、僕は3000mで全中に行くのが目標です。そのために日々の練習を一生懸命取り組んで頑張っていきます。

わたしの作文 ぼくの作文

ゆめはなでこ

小2 妹尾笑和(えわ) 1区

わたしのしょうらいのゆめは、なでしこジャパンに入ってかっやくできるサッカーせん手になることです。どうしてかという、女子のサッカーのしあいプレーをしているせん手をみて「かっこいいな。」と感じて、わたしもあのせん手のようにかっやくしたいなと思ったからです。

今、わたしは、エスカダ高森というチームで、プロサッカーせん手をめざしてまいにちれんしゅうをがんばっています。れんしゅうをがんばったので、しいでは、ドリブルであいてをかわしてシュートをたくさんきめられるようになりました。



編集後記

今号はスポーツの分野でがんばる小中学生を何人も紹介できました。元気が出ますね。

新住民も旧住民も、下市田には多彩な能力の持ち主が集まっています。それぞれがのびのびと力を発揮できれば、きつといい地域になっていくでしょう。

各区育成会 どんど焼き

1区南
ウマくいく年に
会長 上沼豊実



1月10日の準備から小中学生中心に、たくさんの方々の協力で立派なおんべが出来上がりました。天に昇る炎に皆さんの健康と幸福、いろんなことが午(ウマ)くいく1年になりますように祈願しました。

2区
無病息災を願
会長 池野 学



1月12日、朝6時より、中学3年生の点火で始まったどんど焼きは勢いよく炎が上がりました。多くの皆さんが来られ、家族でお餅を焼き、1年間の無病息災を願いました。協力していただいた皆様、ありがとうございました。

3区
保育園の園庭で復活実施



昨年は下市田保育園改修工事のため実施できませんでしたが、今年はい前のように保育園の園庭をお借りして復活させることができました。育成会、PTA、自治会などの協力で準備を行い、12日の朝、無事に実施することができました。

4区
大切な正月行事
会長 服部 美樹



1月12日朝6時に点火し、地域が受け継いできた正月らしい光景が今年も見られました。少子化や地区のつながりなど課題はありますが、大切な行事を来年へつなげられたことに安堵しました。ご協力ありがとうございました。

5区
世代超え交流
会長 久保田 宗利



強風により1日延期した1月12日、朝6時に子ども達と保護者で無事点火。本年度も盛大に実施できました。伝統行事を通じて異なる世代の交流ができ、うれしく思います。準備にご協力いただいた皆様に感謝いたします。

多くの地区が1月10日に準備し翌11日に実施する計画でしたが、強風のため実施を延期した地区が多く、なかには中止した地区もありました。

強風で中止に

6区会長 高橋 智一

今年はどうど焼きの準備を親水公園南側で始めました。しかし、1月12日の朝に強風のため中止が決まりました。完成前に片付けとなりました。ご協力くださった

PTA役員、小中学生、自治会の皆様有り難うございました。



おやす作り(12月14日)